



スタンフォード・京都・アジア諸国とのダイアローグ 「東アジア共同体の時代は 訪れつつあるのか?」

2008年の世界的金融危機、日本における政権交代、中国の経済力の勃興などは東アジア共同体という概念を今までになく、切実な今日的テーマとしつつあります。そして、太平洋のもう一方の側では、オバマ政権が新しい地域主義への関心を深め、それに対応しようとしています。今年の11月には汎太平洋的なAPEC会議が日本で開かれます。

この東アジアにおける地域主義の将来を形作る重要な時期にあたって、スタンフォード大学のショーレンスタイル・アジア太平洋研究センター(APARC)は、各国の専門家による第2回「スタンフォード・京都・アジア諸国とのダイアローグ」を開催いたします。そして、これを機会に、ダイアローグ参加者の中から数名が代表として出席する「公開シンポジウム」を開催いたします。

日中韓による東アジア経済共同体という提案は、実現可能なアジェンダなのでしょうか?それは、APECやASEANプラスなど、他の経済統合のアイディアとどう比べられるでしょうか?経済統合とともに地域的な軍事的安全と政治的安定は、どう保証されうるでしょうか?アメリカはアジアの地域主義とどうかかわり、アジアのそれに対する対応はどのようなものとなるでしょうか?

「公開シンポジウム」では、こうした問題について、以下の各国を代表する識者が積極的に議論を戦わせる予定です。

Public Symposium

参加費無料
【言語】英語
日英同時通訳あり

日時 2010年 9月10日(金)
17:00-18:30(16:30開場)

場所 京都市国際交流会館イベントホール

同時通訳:株式会社サイマル・インターナショナル

モデレーター

◆ 青木 昌彦氏

スタンフォード大学・京都大学名誉教授、スタンフォード日本センター共同理事長

パネリスト

◆ マイケル・アマコスト氏(アメリカ)

スタンフォード大学特別上席フェロー、元・米国駐日大使

◆ 时殷弘(シ・インホン)氏(中華人民共和国)

中国人民大学国際関係学院教授、同校米国研究センター主任

◆ 尹永寬(ウン・ヨングァン)氏(大韓民国)

ソウル大学教授、元・韓国外交通商部長官

◆ トン・ヌー・ティ・ニン氏(ベトナム)

トリ・ベト大学設立プロジェクト代表、元・ベトナム駐欧大使

◆ アンドリュー・マッキンタイア氏(オーストラリア)

オーストラリア国立大学アジア太平洋研究科長・教授

主 催:スタンフォード大学アジア太平洋研究センター、
スタンフォード日本センター、京都市

後 援:京都府、社団法人京都工業会、京都商工会議所

事務局:株式会社ポラリス・セクレタリーズ・オフィス

「DO YOU KYOTO?」
環境にいいこと
していますか?

出演者プロフィール



モデレーター

青木 昌彦氏

スタンフォード大学・京都大学名誉教授、
スタンフォード日本センター共同理事長

比較制度分析を専門とする理論経済学者。研究業績は、制度理論、コーポレート・ガバナンス、企業の理論、日本経済などの分野にわたる。スタンフォード大学とハーバード大学で助教授を務めた後、京都大学において助教授、教授（同大学名誉教授）。1984-2004年、スタンフォード大学教授。2001-2004年、独立行政法人経済産業研究所（RIETI）所長。2008年から国際経済学連合会長。東京大学経済学部卒業、同大学経済学修士。ミネソタ大学経済学博士。



パネリスト

マイケル・アマコスト氏

(アメリカ)

スタンフォード大学特別上席フェロー、
元・米国駐日大使

2002年からスタンフォード大学アジア太平洋研究センター(APARC)に特別研究員として勤務。1995-2002年、ワシントンD.C.のブルッキングス研究所の所長を務める。同研究所は、米国で最も歴史があり、同国の政治、政府、国際関係、経済学、および公共政策研究のリーダー的存在である。24年間の政府勤務においては、政治担当国務次官や日本、フィリピンのアメリカ大使を歴任。2007年、旭日大綬章受章。オハイオ州カーリントン大学卒業。コロンビア大学法学・政治学修士、同博士。



パネリスト

时殷弘(シ・インホン)氏
(中華人民共和国)

中国人民大学国際関係学院教授、
同校米国研究センター主任

専門は、国際政策論や戦略研究、東アジアの安全保障問題、中国・米国の外交政策。南京大学教授(1993-1998年)、南京国際関係学院教授及び国際戦略研究センター主任(1998-2001年)、中国アメリカ史研究会理事長(1996-2002年)などを歴任。また、ハーバード大学イエンシン研究所(HYI)、ミシガン大学、愛知大学をはじめ、米国、欧州、日本の多数の研究機関・大学での教育や研究経験を有する。専門分野における図書や論文も多数。南京大学で博士号(国際関係史)を取得。



パネリスト

尹永寬(ユン・ヨングアン)氏
(大韓民国)

ソウル大学教授、
元・韓国外交通商部長官

専門は、国際政治・経済、東アジアの政治経済、韓国の外交政策。カリフォルニア大学デービス校で教鞭をとった後、1990年ソウル大学に着任。韓国外交通商部政策評価委員(2000-2002年)を経て、2003年2月-2004年1月には、ノムヒョン政権最初の第32代外交通商部長官を務めた。2005年にスタンフォード大学アジア太平洋研究センター(APARC)客員研究員。現在、韓国未来戦略研究院顧問、韓半島平和研究院院長も兼任。米国ジョンズ・ホップキンス大学国際政治学博士。



パネリスト

トン・ヌー・ティ・ニン氏
(ベトナム)

トリ・ベト大学設立プロジェクト代表、
元・ベトナム駐欧大使

外交官として20年以上、国連やASEANなどの様々な国際機関を担当し、国際平和、開発、環境といった問題に従事した。また国會議員として欧米諸国とベトナムとの関係強化にも寄与。現在はトリ・ベト国際大学設立に向けたプロジェクトの代表を務める。ベトナム女性ユニオンの中央執行委員会理事、NGO団体「ベトナム女性グローバルネットワーク」議長を兼任。ベトナムの若年層に多大な影響力を持つ。ソルボンヌ大学、ケンブリッジ大学卒業。



パネリスト

アンドリュー・マッキンタイア氏
(オーストラリア)

オーストラリア国立大学
アジア太平洋研究科長・教授

比較政治経済学、アジア太平洋地域における国際関係、東南アジア、特にインドネシアの政治問題、及びオーストラリアの外交政策を専門分野とする。豪米教育指導者財団、アジア開発銀行研究所の顧問を務める他、豪米指導者対話(AALD)で活躍中。2006年には豪州経済開発委員会での日豪関係強化への貢献に対し、日本の外務大臣表彰を受賞。世界銀行、アジア開発銀行、ASEAN事務局の他、豪・米・中の政府機関でも相談役を務めている。オーストラリア国立大学で博士号取得。